

■死亡場所（愛知県衛生年報）

平成27年度	令和3年度
総数：3,404人	総数：3,838人（+434）
病院：2,508人	病院：2,606人（+98）
老健・老人ホーム：376人	老健・老人ホーム：707人（+331）
自宅：412人	自宅：458人（+46）

\*老健や老人ホームなど、介護施設の死亡場所が特に増加し、終の棲家が病院から住み慣れた生活圏にシフトしている

■在宅医療での看取り実施数（愛知県医師会在宅医療実態調査）

平成27年度	令和3年度
実施施設数：41施設	実施施設数：48施設（+7施設）
実施回数：458回	実施回数：765回（+307回）

■在宅医療でがん緩和ケアを行った実施数（愛知県医師会在宅医療実態調査）

平成27年度	令和3年度
実施施設数：21施設	実施施設数：27施設（+6施設）
実施回数：94回	実施回数：292回（+198回）

■現在確認されている当圏域の緩和ケア資源

現在の尾張西部医療圏保健医療計画において、当圏域（一宮・稲沢）には以下の資源が確認されている。

- ・がん疼痛治療を行っている病院 12施設
- ・地域がん診療連携拠点病院に緩和ケアチーム配置済み
- ・医療機関での麻薬管理 122施設
- ・かかりつけ薬局での服薬指導や麻薬管理 169施設

■尾張西部医療圏保健医療計画が目指す緩和ケアのあり方（計画抜粋）

患者、家族が望む身近なところで生命、QOLを重視したケアを受けられるよう医療と介護も含めた関係機関が連携し、疼痛緩和に留まらず精神的、社会的援助も含めた多職種連携型の在宅緩和ケア支援体制を構築していく必要がある。

医療技術の進歩によりがん治療後の生存期間が大幅に改善してきたことから、治療後に通院しながら就労等の社会生活が営めるような外来緩和ケアの充実を図る必要がある。

→保健医療計画では在宅・外来での緩和ケアの拡充を目指している。